

**インパクトコンソーシアム
第4回 運営委員会資料
(2024年7月22日)**

事務局

【承認を要する議題】

コンソーシアムの会員について

【ご議論いただきたい議題】

コンソーシアムの年間計画と運営について

【承認を要する議題】 コンソーシアムの会員について

- 第3回運営委員会(4月30日)から6月30日までの間に会員申込みがあった別紙1の計20の法人・組織・個人全者を会員としてよいか。

(※)規約では、活動に寄与するものとして入会の申請等のあった法人又は個人を会員とするものとしており、暴力団員等である場合又は故人である場合には、退会させる又は資格を喪失するものと規定している。

- 第3回運営委員会(4月30日)で承認された会員と合わせて、コンソーシアム特設サイトにて法人・組織会員の一覧を別紙2のとおり公開予定。

会員の状況 (ご承認後)

※ 6月30日時点。

・ 事業会社	… 108	(スタートアップや地域企業、上場企業等)
・ 金融機関等	… 99	(銀行、保険会社、証券会社、資産運用会社等)
・ 支援機関等	… 68	(シンクタンク、財団、非営利活動法人等)
・ 業界団体・協議会等	… 16	(経済団体、証券団体等)
・ その他自治体、大学等	… 14	(市役所、学校法人等)
・ 個人	… 47	
合 計	… 352	

1. コンソーシアムと分科会の運営について

コンソーシアムにおいては、官民連携の場として政府から支援を行いつつ、**参加者の自主的な課題設定・議論**を軸とし、**投資指標や事例、対話・支援手法等の産金間の実践上の知見・課題の収集・発信**を中心としつつ、インパクト実現の取組支援につながる幅広い事項について、議論を行う。

分科会運営のあり方

1. データ・指標

2. 市場調査・形成

3. 地域・実践

4. 官民連携促進

- **民間事業者・投資家等における創意工夫を促すよう**、各分科会では、関心を持った投資家・金融機関、企業、支援機関、自治体等の参加者による幅広い自由討議を中心に、座長によるリードの下で、民間各参加者の**取組みの内容や事例などを幅広く共有・尊重**しながら、議論を進める。
- 各分科会全体を通じて、または個々のセッション等において、**創意工夫に取り組む民間事業者・投資家の意欲や取組みのモデル性（他の市場参加者の参考となり得ること）**について、分科会のメンバーに止まらず、**広く発信・浸透**を図って頂く機会とする（例えば、オーガナイズングデスクによる対外発信など）。
- 一方で、官民連携のコンソーシアムとしての強みも発揮出来るよう、関係省庁等から幅広い主体とのコミュニケーション・ネットワーキングを図り、例えば、グローバルネットワークと連携した発信や、データ活用に向けた官民連携強化などの工夫を行い、継続的に関係者の**裾野の拡大と機運醸成を図っていく**。
- 各分科会の**具体内容やスケジュールは、分科会のメンバーで主体的に議論し、柔軟に変更**しながら対応していくこととしつつ、コンソーシアム全体としての発信を効果的に行っていく観点から、**来年3月を目途に、その時点までの議論の状況や今後の見通しなどを、運営委員会で報告**いただき、議論する。また、アドバイザーパネルからも年始前後を目途にインプットをいただく。

- コンソーシアムや分科会の運営や官民連携のあり方について、他に留意すべき点などがあるか。

2. スケジュールのイメージ

- 各分科会の**具体内容やスケジュールは、分科会ごとに主体的・柔軟に検討・対応**することとしつつ、**来年3月を目途に、その時点までの議論の状況や今後の見通しなどを、運営委員会で報告**いただき、翌年度の対応につなげていくことが考えられるのではないか。

年間イメージ

※あくまでイメージであり、状況を見ながら柔軟に調整

中間報告

		2024										2025					
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
イベント等							◆ 10/上 Japan Week	◆ 10/24 -25 GIIN Forum							◆ 5/● PEI Summit		
総会		5/14 第1回															
運営委員会		第4回										第5回			第6回		
アドバイザー等		グローバルアドバイザー										アドバイザー委員会					
分科会	データ・指標	インパクトに関するデータやデータベースの現状・ニーズ等を把握しながら、議論を進める															
	市場調査・形成	論点ごとに議論を積み上げ															
	地域・実践	地域企業や金融支援の具体事例を通じ、企業評価のあり方等を議論										フィールドワーク①		フィールドワーク②			
	官民連携促進	官民連携の事例共有や自治体とスタートアップの連携に向けた議論を進める															

分科会 1 データ・指標分科会（1 / 2）

概要

- 国内外の先行研究等と連携しながら、投資事例等の共有・分析等を行い、中長期的な課題解決・事業性実現等に有効なインパクト指標の設定のあり方、投資実施時のデータの収集・推計方法、社会課題を示すマクロデータのあり方など、データ・指標の項目と着眼点、収集方法等について、議論を行う。
- 当面は、企業・投資家が資金調達・投資、その後の対話に活用出来る実践的なインパクトデータが不足・不明瞭である点が広く指摘されていることを踏まえ、投資で実際に活用されたデータとケースを集約する**国際的なデータベースとの接続も含め、日本固有のデータ・指標も結合したデータベースの整備・運用等に向け、議論を進める。**

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：一般財団法人社会的インパクト・マネジメント・イニシアチブ 代表理事 今田 克司
東京大学大学院経済学研究科 教授 山口 慎太郎
- 副座長：株式会社みずほフィナンシャルグループ サステナブルビジネス部副部長 末吉 光太郎
- ディスカッションメンバー（12名）
 - ・ 株式会社メトリクスワークコンサルタンツ 青柳 恵太郎
 - ・ 第一三共株式会社 有馬 寛
 - ・ KIBOW社会投資ファンド 五十嵐 剛志
 - ・ 野村証券金融工学研究センター 太田 洋子
 - ・ 積水化学工業株式会社 岡田 邦彦
 - ・ 慶應義塾大学准教授 川久保 俊
 - ・ 第一生命保険株式会社 小山 直希
 - ・ 大和ハウス工業株式会社 関 沙織
 - ・ アセットマネジメントOne株式会社 鷹羽 美奈子
 - ・ Nippon Life Global Investors Europe Plc 林 寿和
 - ・ ユニファ株式会社 星 直人
 - ・ 株式会社日本政策投資銀行 松山 将之
- メンバー：データ・指標分科会メンバーに応募のあったコンソーシアム会員（108）

活動と成果のイメージ

1

インパクトデータ・指標の 現状・課題等の整理

- ・ インパクト測定・管理の意義、必要と考えられる各種データ・指標とその重要性について、幅広い分科会メンバーと認識を共有した上で、分科会メンバーに対するアンケート調査を実施し、ニーズを把握する。
- ・ その上で、インパクト投資や事業実施に必要なデータ・指標や、それぞれのニーズに応え得る既存のデータベースとその特性、データベースに関する課題等を整理する。

2

有用なデータベース構想 に向けた検討の観点の整理

- ・ 多様な企業・投資家がインパクト測定・管理に取り組む際に有用なデータベース構想に向けた検討の観点を洗い出し、整理する。
- ・ 検討の観点として、例えば、日本または地域の環境・社会課題に対応するインパクトデータ、インパクトを測定・管理する場合に必要なマクロデータの整備状況等を取り上げる。

3

望ましいデータベースの 方向性

- ・ 関係者のニーズを踏まえ、既存のインフラでは不足しているデータ・指標や分野等を特定し、望ましいデータベースを構想する。
※例えば、投資家や企業のインパクト戦略・目標に紐づく指標が特定され、それに関連するデータの存在がわかるような仕様や、海外のインパクト指標関連ツールとの連携、関連情報や活用事例の掲載等が考えられる。

- ・ 開催形式は原則オンライン、1回につき2時間程度で、2025年5月までに3回程度の開催を予定（変更の可能性あり）。
- ・ オーガニングデスクはデータ・指標に関する事例調査等の国際連携の支援や、分科会における議論の分かりやすい発信等を実施。

分科会 2 市場調査・形成分科会 (1/2)

概要

- 日本のインパクト投資市場の概況を整理し、国際比較や本邦投資家・企業等の特徴も踏まえつつ、裾野拡大を図るべき市場やこのための課題等について議論する。例えば、上場前の又は上場を目指さない企業のインパクト評価、セカンダリー・上場等の出口、多角的な事業を営む上場企業へのインパクト評価、長期投資のあり方等について順次議論を行う。
- 初年度は、特に**投資実務の基本的考え方が定まっておらず議論が重要との指摘の大きい上場市場**に着目し、投資の際の事業の特定、企業と投資家の対話等の課題に関する議論を行い、**実務者も容易に理解できる論点ごとの簡潔な上場市場におけるインパクト投資の要点を発信**していくことを目指す。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：フロネシス・パートナーズ株式会社 代表取締役 白石 智哉
- 副座長：りそなアセットマネジメント株式会社 チーフ・ファンド・マネージャー 井浦 広樹
インパクト・キャピタル株式会社 代表取締役 黄春梅
- ディスカッションメンバー（14名）
 - ・ 大和証券株式会社 池川 忍
 - ・ ライフイズテック株式会社 石川 孔明
 - ・ 日本生命保険相互会社 岩淵 正明
 - ・ 株式会社NTTデータグループ 遠藤 荘太
 - ・ 五常・アンド・カンパニー株式会社 堅田 航平
 - ・ 三菱UFJ信託銀行株式会社 加藤 正裕
 - ・ 株式会社クラダシ 河村 晃平
 - ・ 東京海上アセットマネジメント株式会社 菊池 勝也
 - ・ カディラキャピタルマネジメント株式会社 坂本 一太
 - ・ アサヒグループホールディングス株式会社 西原 香織
 - ・ 株式会社かんぽ生命保険 野村 裕之
 - ・ GLIN Impact Capital 秦 雅弘
 - ・ 野村證券株式会社 林田 稔
 - ・ ティー・ロウ・プライス・ジャパン株式会社 松本 陽子
- メンバー：市場調査・形成分科会メンバーに応募のあったコンソーシアム会員（93）

分科会 2 市場調査・形成分科会 (2/2)

目指す姿	企業	<ul style="list-style-type: none"> 投資家との対話を踏まえ、新たな市場創出や社会・事業の変革に向けた企業経営を一層促すべく、事業が創出するインパクトが企業価値の向上・創造につながる企業戦略を策定・実践していく。
	投資家	<ul style="list-style-type: none"> インパクトと長期的な収益の双方を実現していくため、投資先の事業が創出する「インパクト」をいかに企業価値向上につなげるか、戦略・因果関係を特定し、企業等の有する潜在性を引き出すよう対話を重ね、創意工夫等を促していく。
成果イメージ	中期的	<ul style="list-style-type: none"> 企業・投資家を含む幅広い市場関係者の目線も踏まえ、特に上場企業を念頭に、インパクトが企業価値の向上・創造につながる企業戦略の在り方について議論を進めていく。
	初年度	<ul style="list-style-type: none"> 初年度は、特に、上場企業へのインパクト投資戦略を切り口としてディスカッションメンバー等で議論を重ねつつ、例えば以下のテーマごとに簡潔なディスカッションペーパー等を策定・発信し、中期的な成果に向けた検討を進めていくことが考えられる。

ディスカッションテーマのイメージ

① 多角的に事業を営む企業への投資戦略	対象となる事業を特定すればインパクト測定等は容易になるとも想定される一方、上場企業等は多角的に事業を営むもの。上場市場におけるインパクトの特定・促進の考え方や戦略の種類について、各社の事例をもとに議論する。
② 企業のリソースに応じたインパクト評価	リソースが限られるエマージング上場市場の企業等がインパクトを企業価値の向上につなげようとした場合、どのようにリソースを配分して取り組みを進めることが考えられるか、議論する。
③ 投資家の事業の見方と企業の開示	投資家はインパクト投資を行うにあたってどのような視点で事業を理解していくのか、その際にどのような情報が必要か、企業における開示の負荷等も考慮した上で議論する。
④ 企業と投資家のエンゲージメント	インパクトを企業価値の向上につなげていくために望ましい対話のあり方について、これまでの企業価値向上のためのエンゲージメントの事例も踏まえながら議論する。
⑤ アセットオーナーによる受益者への説明	インパクト投資の裾野拡大のためには、最終受益者の理解が欠かせないという観点から、アセットオーナーが最終受益者の意向を汲み取り、理解と議論を深める方法論等について議論する。

- 開催形式は原則オンライン。1回につき2時間程度、2025年5月までに5回程度の開催を予定（変更の可能性あり）。
- オーガナイズングデスクは専門知見の提供や、分科会における議論の分かりやすい発信等を実施。

分科会3 地域・実践分科会（1/2）

概要

- 地域には、潜在的に活用し得る様々な環境・社会的又は人的資源が存在。こうした資源を**活用しつつ地域発で環境・社会課題に対応し、経済・社会基盤の強化を実現していく取組みへの期待は高い。**
- 実際に、足許、**規模や業種、求める社会・環境的效果や収益水準、成長速度等も多様な企業によるインパクトの創出例**が見られつつある一方、地域からインパクトの実現を通じて事業の成長・持続可能性等を実現するには様々な経営・資本戦略等のノウハウが必要で、取組みの実践は決して容易でないと考えられる。
- このため、まずは多様な取組みの浸透・拡大を図るよう、**社会・環境課題の解決の視点を取り入れた地域の価値創造等の取組可能性が多岐にわたる点が理解し易い、関心喚起型の議論・取組みが重要。**課題意識を持ち易い多様な発信を行い、機運醸成とネットワーク構築を支援し、地域への人材・資金の流れを強化していくことで、**環境・社会課題の解決と成長が、様々な工夫の下で相互に補完・強化する好循環の地域発での実現**を目指していく。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：株式会社慶應イノベーション・イニシアティブ プリンシパル 宜保 友理子、龍谷大学教授 深尾 昌峰
- 副座長：一般財団法人社会変革推進財団 常務理事 工藤 七子、
株式会社日本政策投資銀行 経営企画部サステナビリティ経営室長 金谷 真吾
- ディスカッションメンバー（14名）
 - 株式会社静岡銀行 大杉 幸弘
 - 三井住友信託銀行株式会社 金井 司
 - 株式会社UNERI 河合 将樹
 - 一般財団法人日本民間公益活動連携機構 小崎 亜依子
 - 株式会社陽と人 小林 味愛
 - 株式会社Zebras and Company 田淵 良敬
 - 株式会社うむさんラボ 比屋根 隆
 - 株式会社ヘラルボニー 松田 崇弥
 - 日本商工会議所 松本 憲治
 - 北九州市 森永 康裕
 - 八十二インベストメント株式会社 山口 哲也
 - 公益財団法人東近江三方よし基金 山口 美知子
 - UntroD Capital Japan株式会社 山家 創
 - ベータ・ベンチャーキャピタル株式会社 渡辺 麗斗
- メンバー：地域・実践分科会メンバーに応募のあったコンソーシアム会員（126）

分科会3 地域・実践分科会（2/2）

年間計画のイメージ

- 各回、以下のようなゲストスピーカー（2～3名）にプレゼンいただき、ディスカッションメンバー等による議論を行う。原則オンライン開催、2時間程度。

深尾座長・工藤副座長

- ✓ **【地域課題とインパクトの概論】**
インパクトスタートアップやゼブラ企業が捉える地域の社会課題と、インパクト拡大のための資金・人材面等の課題等
 - ✓ **【地域企業のインパクトビジネス最前線】**
インパクトとの関連性が見えにくい老舗企業や中堅企業が捉える地域の社会課題と、事業を通して取り組む意義
- ※ 24年7月下旬、9～10月頃に開催予定

宜保座長・金谷副座長

- ✓ **【地域内の関係者によるインパクトの創出支援】**
地域VCや地域金融機関等が、地域発のインパクト創出を支援する際の創出意工夫や課題等
 - ✓ **【地域外の関係者との連携によるインパクトの創出】**
地域外のVCや大手企業等が、地域のステークホルダーと連携し、地域事業を支援する際の意義や留意点等
- ※ 24年11月頃、25年2月頃に開催予定

【フィールドワークの実施】 ※ 24年12月、25年3～4月頃に実施予定

- ・ 地域内外の関係者が連携・協働してインパクトの創出に取り組む地域（中小企業庁「地域の社会課題解決企業支援のためのエコシステム構築実証事業」の選定先も含む）の関係者と、エコシステム形成や関係者の協働のあり方等を議論

【事例や各回の議論を下記の通り整理し、成果物等の作成・発信】

- 多様な地域発のインパクトについて、ケーススタディやフィールドワークでの議論を通じて、**例えば、地域内外の幅広い関係者間での共通理解を醸成し共感・協働を得る方法論や、インパクトを事業評価に加味する視点、複層的なファイナンスのあり方**など、共通する視座等を抽出し、成果物として発信
- 各回の議論やフィールドワークを通じて共有された**地域における創意工夫やプレーヤーの取組み・想い等**については、他の市場参加者の取組みの参考となるモデル性のあるケース等として、オーガナイズングデスクがブログ等の一般に分かりやすい形式で、タイムリーに発信することを検討
- 議論の気づきをわかりやすく伝えるため、座長より、議論で印象に残った創意工夫やプレーヤーを各回の総括の中で紹介

地域における気運醸成につながる関心喚起型の議論・取組み

分科会 4 官民連携促進分科会 (1/2)

概要

- 社会課題が多様化する中で、国や自治体等の行政組織が民間事業者と連携しその課題解決にあたる必要性が増しているところ、**特にインパクトスタートアップと連携した社会課題解決の促進について議論**する。
- 行政組織とインパクトスタートアップとの官民連携に関しては、行政組織側、スタートアップ側にそれぞれ課題が存在しており、こうした**課題を構造化したうえで提示をし、課題解決の方向性と手法に係る議論を深めていく**。
- 令和6年度は、特に自治体とインパクトスタートアップの連携における課題の解決を目的に、**インパクトスタートアップのソリューションや、官民連携に資するノウハウ・事例等の情報を集約した成果物を作成**、その普及・活用促進方法に係る検討を行い、**今後の事例創出に繋げることを目指す**。

メンバー

※敬称略・五十音順

- 座長：スタートアップ都市推進協議会 会長 高島 宗一郎
一般社団法人インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良 はるか
- コアメンバー：
 - 札幌市 経済観光局 経済戦略推進部 イノベーション推進課 スタートアップ推進担当 係長 伊藤 諒
 - 株式会社TBM 常務執行役員CMO 笹木 隆之
 - ライフイズテック株式会社 取締役 CEAIO 讃井 康智
 - 福岡市 経済観光文化局 創業推進部 創業支援課長 紫垣 和宏
 - 浜松市 産業部 スタートアップ推進課 課長 田中 言彦
 - 株式会社CureApp 事業開発・推進統括取締役 宮田 尚
 - つくば市 政策イノベーション部 科学技術戦略課 スタートアップ推進室長 屋代 知行
- メンバー：官民連携促進分科会メンバーに応募のあったコンソーシアム会員 (88)

分科会 4 官民連携促進分科会 (2/2)

今年度分科会終了時に目指す姿

- **インパクトスタートアップと自治体の官民連携においては、現状多くの課題が存在している**
(課題の例) –自治体とインパクトスタートアップの接点が限られており、課題に対し優れたソリューションがあってもマッチングに至りにくい
–自治体の中で、インパクトスタートアップを始めとする民間事業者との連携に関するルールやプロセスが整理されていない
–インパクトスタートアップと地方自治体の間には、コミュニケーションの仕方、プロセス、スピード感など様々な面でギャップがある
–自治体が連携する事業者を選定するにあたって、その性質上インパクトスタートアップを選びにくい傾向がある
- 上記のような課題に対応する優れた連携事例は存在する一方、**解決策やノウハウの共有機会が少なく、横展開が進みにくい**



アウトプット



- **インパクトスタートアップのソリューションマップや、官民連携に資する情報**を集約した成果物 (= 実践ガイド) を作成
- デジタル行財政改革 国・地方スタートアップ連携実務者会議等 関係省庁の取り組みとも連携し**「実践ガイド」の認知・活用**を促す
- 具体的な官民連携の**事例創出に向けた議論・検討**を行う

※運営について

- 開催形式は原則オンライン。1回につき1～2時間程度、2025年3月までに3回程度の開催を予定（変更の可能性あり）
- コアメンバーによる議論を別途行った上で、分科会では広くメンバーから意見を募る形を想定

今年度分科会終了時の状態



- 「実践ガイド」に基づき多くの自治体が官民連携**事例を創出するきっかけ**ができている
- 作業部会のメンバーが検討した**官民連携プロセス・ノウハウが整理・標準化**される

中長期的なアウトカム



- 「実践ガイド」やこれまで蓄積したノウハウが**より多くの官民連携実績や事例**を生む
- インパクトスタートアップとの官民連携を通じた各地域での**社会課題解決**が進む

(参考) コンソーシアムについて (1/3)

- **インパクト実現を図る経済・金融の多様な取組みを支援し、インパクトの創出を図る投融資を有力な手法・市場として確立し、事業を推進**していくため、**投資家・金融機関、企業、NPO、自治体等の幅広い関係者が協働・対話を図る場**として、23年11月、官民連携の「**インパクトコンソーシアム**」を設置。
- 運営については、官民連携の場として政府から支援を行いつつ、**参加者の自主的な課題設定・議論**を旨とし、**投資指標や事例、対話・支援手法等の産金間の実践上の知見・課題の収集・発信**を中心としつつ、インパクト実現の取組支援につながる幅広い事項に係る議論を行う。また、必要に応じ、政策発信を含む**対外メッセージの発信**等を検討していく。

会長

- 高崎経済大学 学長 水口 剛

副会長

- GSG Impact JAPAN※¹ 委員長 渋澤 健
- 日本経済団体連合会 常務理事 長谷川 知子
- 全国銀行協会 企画委員長 安地 和之

運営委員

- 日本経済団体連合会 本部長 正木 義久
- 経済同友会 執行役 宮崎 喜久代
- 日本商工会議所 理事・企画調査部長 五十嵐 克也
- インパクトスタートアップ協会 代表理事 米良 はるか
- GSG Impact JAPAN事務局SIIF専務理事 青柳 光昌
- スタートアップ都市推進協議会 会長 高島 宗一郎
- 三井住友FG グループCSuO 高梨 雅之
- 常陽銀行 取締役常務執行役員 小野 利彦
- 日本生命保険 執行役員 河崎 圭助※²
- 野村ホールディングス CSuO兼情報開示担当 岸田 吉史
- 日本ベンチャーキャピタル協会会長 田島 聡一
- 日本政策投資銀行 執行役員経営企画部長 成清 正和
- りそなアセットマネジメント 常務執行役員 松原 稔

※¹ GSG国内諮問委員会から名称変更

※² 協会の年次体制変更に伴い、第一生命保険 常務執行役員 重本 和之氏から交代

(参考) コンソーシアムについて (2/3)

有識者等によりアドバイス等を受ける機構として、それぞれ以下のような目的で、「アドバイザリー委員会」、「グローバルアドバイザリーパネル」、「オーガナイズングデスク」の3つ設置し、メンバー間及び対外機関等との円滑かつ実効的な議論を進める

総会

- 事業方針と運営の基本的事項を決定
 - 役員（会長・副会長）の選任
- ※状況に応じ、幅広いメンバーが参加するアドホックのオンラインセッション等も検討
※若年層による議論や意見発信を行う場も検討

運営委員会

- 総会日程、分科会の設置・調整・進捗確認
- その他運営事項の決定

アドバイザリー委員会

年1回程度
国内の地域課題を含む
コンソーシアムの運営状況
等に助言

グローバルアドバイザリーパネル

都度開催
海外での取り組みを紹介し、
日本における活動の方向性
についてディスカッション

分科会

- 会員に分科会メンバーを広く募集
- 効果的な議論推進のため、議論を取りまとめる「座長」、座長を補佐し資料等の集約を中心的に行う「副座長」、集中的に議論を行う「ディスカッションメンバー」等を設定

オーガナイズングデスク

分科会に対し、グローバルな専門的知見に基づくアドバイスを提供し、関係者の意見収集を踏まえた多様な目線感で民間の議論を喚起

1. データ・指標

2. 市場調査・形成

3. 地域・実践

4. 官民連携促進

事務局

- 国が支援を行いつつ、各機能を委託
(会議運営、イベント運営、ホームページ作成等)

アドバイザー委員会

- 国内の有識者を中心とし、地域課題を含むコンソーシアムの運営状況等に助言を行う。年1回以上程度の開催を想定

委員長：安間 匡明 PwCサステナビリティ合同会社執行役員常務
江夏 あかね 野村資本市場研究所 野村サステナビリティ研究センター長
景山 綾子 国際連合開発計画(UNDP) サステナブル・ファイナンス・ハブ シニアエキスパート
小城 武彦 九州大学 ビジネス・スクール教授
古田 秘馬 株式会社umari代表
山本 晃久 西村あさひ法律事務所・外国法共同事業 弁護士 パートナー

グローバルアドバイザーパネル

- グローバルな実務動向について知見を得つつ、本邦における活動の方向性について幅広い議論を行う。海外の機関等を都度若干名程度アドホックで招聘(オンラインを含む)し、本邦関係者と議論を行う。

パネルに招聘する団体等の例：国際機関・ネットワーク、海外有識者・実務担当者等

グローバルアドバイザーパネル企画座長 (Co-Chairs, Global Advisory Panel Planning Committee)

- ・ UntroD Capital Japan株式会社 藤井 昭剛 ヴィルヘルム氏
- ・ GLIN Impact Capital 中村 将人氏

オーガニングデスク

GSG Impact JAPAN

- 分科会に対し、国際的・専門的知見に基づくアドバイスを提供し、関係者の意見収集を踏まえた多様な目線で議論を喚起

事務局 業務委託先

EY 新日本有限責任監査法人

- 分科会を含むコンソーシアム全体について、会議運営、イベント運営、ホームページ作成等を担う